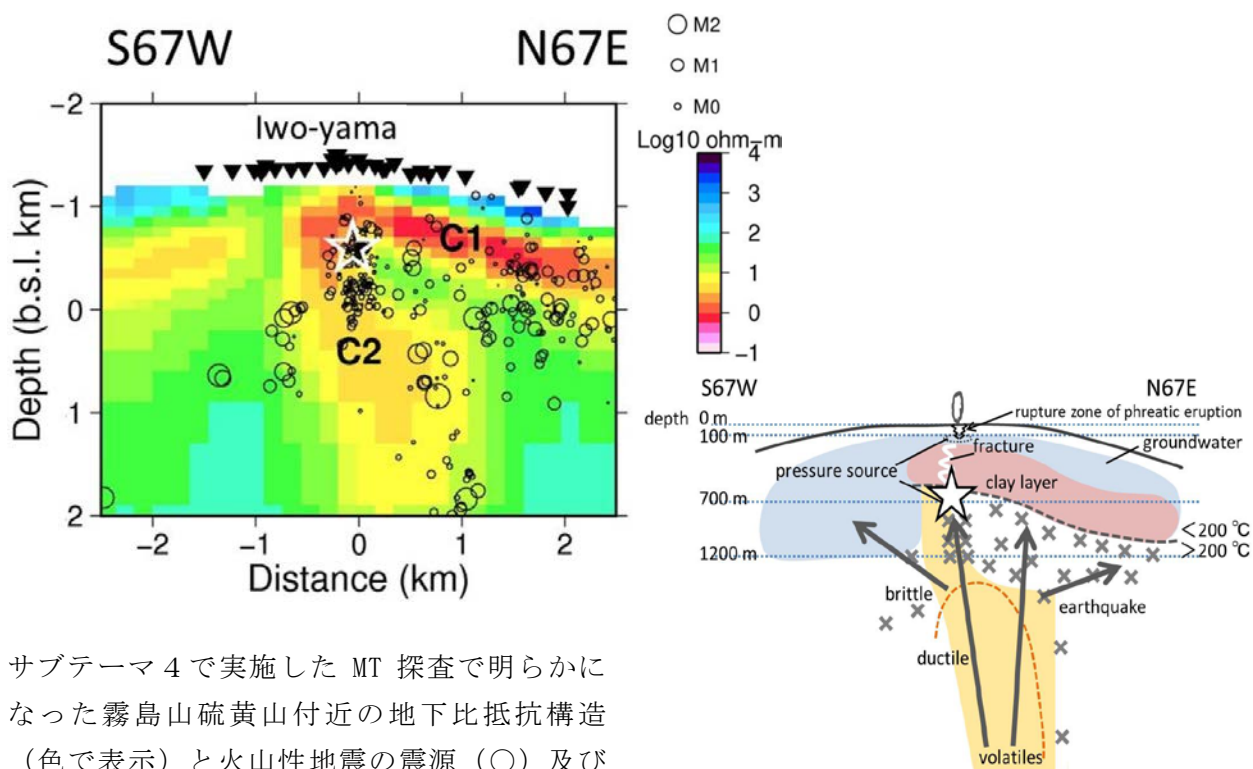


口絵



平成 30 年 4 月 19 日に水蒸気噴火が発生した霧島山硫黄山 南側から噴気地帯を見た写真（平成 31 年 5 月 10 日松島氏撮影）。サブテーマ 4 で実施した水準測量調査や電磁気調査から推定された圧力源は、この噴気地のほぼ真下の約 700 m と推定されている。



サブテーマ 4 で実施した MT 探査で明らかになった霧島山硫黄山付近の地下比抵抗構造（色で表示）と火山性地震の震源（○）及び水準測量調査で明らかになった圧力源（★）。右の模式図で示すように水を通さない粘土層（赤：低比抵抗を示す）によって、地下深部から供給された熱水が粘土層に阻まれ、熱水溜まり（圧力源に対応）を作り、やがて粘土層を破り、水蒸気噴火が発生したと考えられている。



次世代火山研究者育成プログラム（霧島火山）で実施されたサブテーマ4で開発している遠隔熱活動情報解析システム（ドローン）を用いた火山実習。ドローン操縦と観測は実習生全員が体験した。平成31年3月6日撮影。



本事業で実施した伊豆大島緊急観測の際に新たに設置した火山土壌ガス流量連続観測装置。本事業の参加者や気象庁職員が協力して三原山山頂に設置した。平成30年9月2日撮影。



サブテーマ2で開発している可搬型レーダー干渉計の試作機。自動車に搭載して移動を可能にして、色々な方向から地盤変動を捉えることを可能にする計画で開発を進めている。